

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 11 日現在

機関番号：37402

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520379

研究課題名（和文） 韓国の移住小説における都市空間研究

研究課題名（英文） Exploring the urban spaces of the Korean migrant literature

研究代表者

申 明直（SHIN MYOUNGJIK）

熊本学園大学・外国語学部・教授

研究者番号：50389524

研究成果の概要（和文）：韓国の移住小説に現れている都市空間の分析により、①移住空間における領土と主権の不一致状態、即ち脱領土化が進んでいること、②これに対する上からの再領土化企画（強制追放等）と下からの再領土化企画（民主的な反復による法生産・柔軟な国境化）が共に進んでいること、③普遍的な人権に基づいた国家層位における再領土化と共に、まだ不完全ではあるが、トランスナショナルな層位における多国家市民権を通して領土と主権の矛盾を解決しようとする事情等が把握できた。

研究成果の概要（英文）：Through an analysis of the urban spaces that appear in the Korean migrant novels, we see a mismatch between the conditions of sovereignty and territory in the migration space, i.e. deterritorialization is in progress. We also can observe that the project of reterritorialization from above (deportation etc.), of reterritorialization from below (jurisgenerative politics and the flexible creations of borders by the democratic iteration) is progressing with this trend. This exploring concludes with the assertion that the reterritorialization at the national level on the plane of general human rights, and the as yet incomplete multinational citizenship at the transnational level, can help solve the contradiction of sovereignty and territory.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、文学一般

キーワード：諸地域・諸言語の文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究においての韓国の移住関連小説の主な分析対象は、登場人物のキャラクターではなく、各人物の背景になっているグローバルな空間である。対象としている小

説を調べてみると、韓国のソウルとその近隣都市は、朝鮮族が多く暮らしている中国の東北地域と連携されており、またネパールのカトマンズやモンゴルのウランバートルとも連携されている。尚、ソウルと近

隣都市には、中国の朝鮮族の空間とネパール人やビルマ人の空間も存在している。

(2) そのため、①対象小説に出てくるそれらのグローバル空間の性格を究明すること、②対象としている小説における空間と空間の「疎通」の程度を分析する。小説「カリボン恋歌」、「ピングオリ」などの舞台であるソウルの外郭、特に「カリボン」と中国の東北地域の朝鮮族自治区の「延辺」、小説『ナマステ』、「象」、『巨大なルーツ』の背景である韓国の首都圏の外郭都市である「富川・仁川」等とネパールの「カトマンズ」等との関係性に特に注目しながら研究を行う。

2. 研究の目的

(1) 韓国はすでに「多文化」時代に入っている。国境を越えて入ってくる移住民はすでに100万人を超え、農村での結婚移住の割合に至っては、もはや4割を超えている。中国の東北地域やネパール等の東南アジアからソウルの近隣地域に入っている移住民を描いた小説も2000年代に入って大幅に増えている。

(2) 本研究は、①韓国の移住民を描いた小説の背景になっている都市空間の性格と、②「海外移住前の空間」と「海外移住後の空間」との関連性に特に注目する。即ち、小説の背景になっているグローバル都市空間が、どれくらい他者に「開かれている時空間」になっているかを究明するのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) 平成22年度には、研究対象の小説の中で、①「ネパール」から韓国の「首都圏都市」への移住と、②その他の東アジアから韓国の「首都圏都市」へ移住関連小説の背景都市を考察する。平成23年・24年には、①中国の延辺からソウルの外郭への移住と、②北朝鮮から中国の東北地域を経て韓国までの移住過程の中の年を考察し、それぞれの都市の「グローバル空間」としての性格を究明し、都市と都市の疎通関係を分析する。

(2) そのために、①対象小説の背景都市として頻繁に出ている韓国の京畿道とネパールのカトマンズでの現地調査(H.22年度)と、②中国朝鮮族が密集している韓国のソウル外郭の「カリボン」と朝鮮族の出身都市「延吉」での現地調査(H.23年度)を行う。その調査結果はデータベース化し、ホームページ(韓・中・日・ネパール語)等の運営を通して、海外研究者ネットワークを構築する。

4. 研究成果

(1) 韓国の移住小説に現れている都市空間の分析により、まず移住空間における領土と主権の不一致状態、即ち脱領土化が進んでいることが分かった。①韓国の小説『ナマステ』の背景(第1次年度)となっている1990年代後半以降の韓国の首都圏の場合、移住労働者の急激な増加により住民の主権と領土が一致していない現象が発生している。②中国朝鮮族による集団居中地である韓国ソウルの外郭カリボンを描いた韓国の小説「カリボンの羊串」、「カリボン恋歌」、短編映画「カリベガス」の分析(第2次年度)によると、中国朝鮮族はカリボン空間の主な居住者であるがその空間の主権を持っておらず、主権と領土の矛盾が発生しているといえる。③梁石日の小説を映画化した『血と骨』、『月はどこに出ている』、梁英姫の映画『ディア・ピョンヤン』の背景となっている在日コリアンの朝鮮部落にも(第3次年度)、サンフランシスコ平和条約により主権と領土が一致していない脱領土化現象が起こっていることが分かった。これは、戦後旧植民地出身者の空間とグローバル化の進展により生じた空間の共通点でもある。④近年国家主権は両極分解され、下位国家的な市民権(都市市民権)と上位国家的な市民権(ヨーロッパ連合市民権)或いは二重国籍(中南米の一部)など、脱国家化が進み、多様な市民権が登場するようになった。

(2) 領土と主権の不一致状態を解決するための二つの方法、即ち上からの再領土化企画(強制追放等)と下からの再領土化企画(民主的な反復による法生産・柔軟な国境化)が共に進んでいることが分かった。①特に、韓国小説『ナマステ』の背景となっている2003~04年の雇用許可制の導入年度に発生した移住労働者との衝突は、上からの再領土化企画(国家による未登録移住労働者の強制追放)と下からの再領土化企画(民主的な反復による法生産的政治学・柔軟な国境化)との衝突の結果であった(第1次年度)。②1987年以後、中国朝鮮族によるカリボンの再領土化過程は、超国家・国家・ローカルの其々の層位から進んできた。主に中国朝鮮族女性によって形成されてきた「超国家的家族ネットワーク」(超国家的層位)、小説「カリボンの羊串」で見られる関連法律強化による不法滞在化と暴力組織のゲッター化(国家的層位)、一時的・流動的少数民族集団居住地化(ローカル)などである(第2次年度)。③在日コリアンの作品で現れている、主権と領土の矛盾を解決するための努力は、二つの

道、即ちいわゆる祖国への「帰還・帰国」と永住している日本における主権の再領土化のための努力である。後者の道は、特に70年代の差別撤廃運動と80年代の指紋押捺反対運動による新しい法律の生成といった民主的反復－再領土化企画を指す(第3次年度)。

(3) 普遍的な人権に基づいた国家層位における再領土化と共に、まだ不完全ではあるが、トランスナショナルな層位における多国家市民権を通して領土と主権の矛盾を解決しようとする事情等が把握できた。①小説『ナマステ』におけるカミルの献身(MOGU)とシヌの愛(MAYA)は、国家を超える新しい連帯と倫理を意味する。この小説は、国家と移住者による再領土化の産物である「雇用許可制」を克服するトランスナショナルな権利と責務(無籍者としての倫理)を描き出している(第1次年度)。②領土主権と国家主権は同義語ではない。韓国のガリボンに集団居住している中国朝鮮族の主権は、ローカル・トランスナショナル主権と緊密につながっている。関連小説に描かれている中国朝鮮族の2世教育・保険・環境問題は、中国朝鮮族のために保育園等の問題を解決するローカル主権と、朝鮮族2世のために韓国と中国の二重国籍問題等を解決するトランスナショナル主権を共に必要としている(第2次年度)。③梁石日の小説等を元にした映画の中の在日コリアンは、1945年以来、日本に暮らしてしながら韓国と北朝鮮を共に生きて来た。作品の中の在日コリアンはトランスナショナルな多国家市民としての権利と責務の一部は持っているが、これらをより拡張しようとしていることが分かった(第3次年度)。

(4) 韓国の移住小説の背景となっているネパール、ロシア沿海州、韓国、日本等を繋ぐトランスナショナルなネットワークが構築できた。①NPO 法人東アジア共生文化センターを立ち上げ、ネパールから熊本に東アジア共生珈琲を輸入し、地域生協に販売することができた。②熊本の地域放送局である熊本放送(RKK)と共に、多くの移住者が集中的に居住している韓国の京畿道と夜学でつながりを持つロシアの沿海州を訪ね、ロシア沿海州と韓国の京畿道そして日本の九州とのローカルを基盤にした国境を越えるネットワークを探ってみた。この取り組みは九州地域でテレビとラジオを通して放送された(2013年3月)。「ムーブ 共生の海へ」(<http://www.e-jnn.com/move/page/20130317/20130324/>)という番組には、これまでの研究結果の一部であ

る、東アジア都市空間に暮らしている人と人との間のトランスナショナルなネットワークが収録されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

- ① 申明直、協働共同体とフォルケホイスコーレ、石堂論叢、査読有、第53巻、2012、83～127頁
- ② 申明直、ガリボンを廻る脱領土化と再領土化、ローカリティ人文学、査読有、第6巻、2011、47～90頁
- ③ 申明直、主権の脱領土化と東アジア市民－韓国小説『ナマステ』を中心に、海外事情研究、第39巻1号、2011、87～110頁
- ④ 申明直、植民地近代の同一性と非同一性：安夕影と岡本一平の場合、文学・言語学論集、査読有、第18巻2号、2011、1～21頁

[学会発表](計8件)

- ① 申明直、在日コリアンと多国家市民権、2013石堂学術院国際学術シンポジウム、2013年2月1日、東亜大学校チョンチョンホール
- ② 申明直、冷戦期における在日コリアンのシティズンシップの変化、2012日韓共同研究ワークショップ、2012年8月11日、日本大学百周年記念館
- ③ 申明直、韓国の多文化家族への韓国語支援、多文化共生シンポジウム in くまもと(第4回)、2012年2月18日、熊本県立大学
- ④ 申明直、協同組合とフォルケホイスコーレ共同体、文化コンテンツ研究所学術シンポジウム2012、2012年2月3日、東亜大学校
- ⑤ 申明直、韓国カリボンの朝鮮族集団居住空間に関する一考察、アジア共生学会(国際シンポジウム)、2011年11月5日、九州国際大学
- ⑥ 申明直、民主的反芻と主権の再領土化－東アジア不可触民と地域市民権、東アジア学会(第21回大会)、2011年10月8日、北九州市立大学
- ⑦ 申明直、主権の脱領土化と東アジア市民、人文言語学国際フォーラム、2011年2月19日、東京外国語大学
- ⑧ 申明直、植民地近代の同一性と非同一性、2010東アジア韓国学国際学術会議、2010年11月25日、仁荷大学校

[図書](計3件)

- ① 申明直 他 (共著)、ソミョン出版：ソウル、移住とローカリティの再構成、2013、369 頁 (中 127～177 頁)
- ② 申明直 他 (共著)、東アジア学会、東アジア-行き交う人・モノ・文化、2012、169 頁 (中 1～33 頁)
- ③ 申明直、ゴズウィン：ソウル、ガマラマジャイ：ネパールの幼い労働者と移住、2010、192 頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

<http://www2.kumagaku.ac.jp/teacher/shinmj/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

申 明直 (SHIN MYOUNGJIK)
熊本学園大学・外国語学部・教授
研究者番号：50389524

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：